



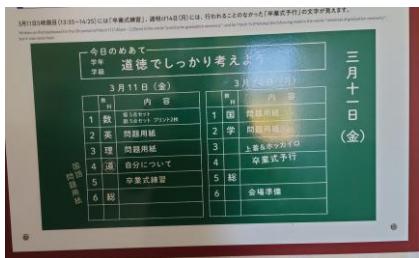
柳沢にも「オバケ」がありました。

# わつくつ

～明るく かしこく たくましい子ども～

令和7年度  
滝沢市立柳沢小中学校  
校報 第14号  
令和7年11月14日  
文責： 小野寺

## 「歴史」から学ぶ～被災地訪問から～



11月5日（水）、柳沢中学校が被災地訪問で陸前高田市の東日本大震災つなみ伝承館いわてつなみメモリアルを訪問しました。

朝の8時30分に柳沢小中学校を出発し、東北自動車道、釜石道を経由して10時30分過ぎに陸前高田市につきました。そして旧気仙中学校、防潮堤、旧道の駅タピック45と津波伝承館を見学して回りました。

旧気仙中学校と旧タピック跡は震災遺構であり、実際に起きたつなみの様子を伝える施設です。校舎内に運ばれた大きな山車の残骸、当時のままの連絡黒板、天井の鉄筋に引っかかったままの学生服等、つなみの跡がそのまま残されていま

した。また、ガイドの方からは当時の気仙中学校の生徒が避難した様子をお聞きし、全員無事であったことが偶然ではないこと、生徒本人は無事でも、親や関係者をなくしており、ほぼすべてが「遺族」となってしまったことを教えていただきました。

旧気仙中学校に続いて見学した防潮堤では献花をした後、防潮堤やそのわきに作られた新しい「松林」等について説明を受けました。高さ12mで作られた防潮堤ですが、とても高く、そして頗もしく見えました。しかし東日本大震災の時のつなみの高さには及びません。この防潮堤は「防ぎきる」ものではなく、ある程度の津波は防ぎ、巨大な津波は到達を「遅らせる」目的で作られたそうです。つなみの注意報・警報が出たときは、これからも迷わず避難することが大切とのお話をしました。

つなみ伝承館では東日本大震災当時の地震と津波、そしてそれらに対応した人々のようすが映像や実物で展示されていました。地元の消防団や自衛隊も含めて、いろいろな人々が地震の被害に素早く対応し、つなみに備え、そして大きな被害が出てしまったことが、ありありと伝わる内容でした。岩手県内はもちろん、関西の学校や外国からの研修使節団も一緒に見学していました。

ガイドの方からは「海は魚などの利益をもたらす一方で、つなみや高潮などの被害をもたらすことがある。東日本大震災のつなみで失われた松林のほとんどがその前のつなみの後に作られたものだったように、これからも過去に学びつつ、次の災害に備えた努力を続けなければならない。場所や災害の中身は違っても私たちはこのような努力をしなければならないことを忘れないでいてほしい。」とのお話をありました。

翌日には早速、学んだことを作文にまとめ、交流し合いました。

当日の昼食は施設に付属の食堂で、海鮮丼などのおいしいメニューをいただきました。しかし今回の学習の最大の収穫は自然や災害の恵みと怖さそしてそれらとどう向き合うか、だったと思います。

「楽しいステージでした！」～小学校音楽会より～



11月6日（木）に滝沢市小学校音楽会が盛岡市民文化ホール（マリオス）を会場に開催され、本校の児童も参加、出演しました。当日の朝はいつもより早く登校してもらい、会場に向かいました。

全体の演奏は9時40分位からはじまり、本校の出演は姥屋敷小学校の合唱・ハンドベルの演奏に続き、2番目でした。曲は学習発表会でも披露した合唱「チャレンジ！」と合奏「クラッピングファンタジー」。ステージ発表はとても緊張した中でしたが、三上千春先生の指揮のもと、落ち着いて発表し、すてきな歌声や楽器の音色を会場に響かせていました。大勢が見守る緊張した中で、自分たちの力を十分發揮しており、児童のみなさんの合唱・合奏のうまさと共に、気持ちの力強さを感じることができました。

そのあとは、市内のたくさんの小学校の合唱を聴き、良いところをしっかり学んで給食前に柳沢小中学校に、笑顔で戻りました。

講師 岩崎 雅司 先生より

#### 「チャレンジ！」について

アップテンポの曲のフレーズを、スピード感をもつて表現しています。スタッカート、マルカート、レガート等、曲のイメージをメンバーがしっかり持ち、共有して歌い上げた合唱、素敵でした。

#### 「クラッピングファンタジー第4番」について

ピアニカとカスタネットのアンサンブルは初めて聴きました。シンプルだけどとても楽しかったです。奥が深いと思いました。8ビートの刻みを感じるともっと良かったですね。

#### その他

ピアニカのメロディー、のびやかでカスタネットのリズムと組み合わせて楽しいステージでした。

「おさない、かけない、○やべらない、

●どらない」～避難訓練 より～



11月6日（木）の昼休みを利用して、避難訓練を行いました。今回は岩手山の噴火を想定したものです。

実際に噴火が起きた場合、噴火の警戒情報が出されたりした場合、一度技術・図工室に避難し、状況を見て、市からの緊急車両（バス）、間に合わない場合は教職員の自家用車で滝沢二小へ避難します。そして今回の訓練ではこの流れに沿って訓練しました。

図工技術室に集合してからヘルメットとゴーグル（火山灰除け）の着用を確認しました。そして講堂を通り、教職員の自家用車に分乗して（今回はグランドまで）避難しました。

教員から事前の指導はありましたが、小学1年生から中学生3年生まで、無用な言葉を発する児童生徒は誰一人おらず、緊張感をもって整然と避難することができました。

最近はクマの出没が相次いでおり、柳沢地区でも見られています。今回の訓練は火山の噴火を想定したものでしたが、クマをはじめ、学校で不測の事態が発生した場合には、今回やこれまでの訓練を応用して行きたいと思います。